



保護者の思い

私の子供は3歳～6歳の3年間「ぶれ・しゅーれ」でお世話になりました。「ぶれ・しゅーれ」に通い始めた頃は療育の知識も無く、子供をどのように育てていったら良いのか、将来どのようになるのかと不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、「ぶれ・しゅーれ」で子供の特性について何度も丁寧に教えてもらうことで、少しずつ子供の特性を理解できるようになりました。また、相談にもたくさん乗っていただきました。一緒になって子供の事を考えてくださりアドバイスもしてもらいました。「ぶれ・しゅーれ」に通うことで子供だけでなく、私自身も成長ができたと感じています。

娘がぶれ・しゅーれに行く前は自分の中で娘の困り事をどうケアしてあげたらいいのかなり悩んでいました。癩癩で長い時間クールダウンできず私も娘も精神的に安定した生活が送れないこともありました。周りの子と比べ手がかかる娘の相談できる場があればと思いぶれ・しゅーれを利用させて頂きました。ぶれ・しゅーれのスタッフの方は私の気持ちをとてもよく理解して下さい娘の行動の理由や介入の仕方を一緒に考え実践してくださいました。視覚から情報が入りやすい娘に絵カードを使ってスケジュールを理解させて下さったり娘に無理の無いよう様子を見ながらケアにあたってくださいました。小学校入学前の家での準備、学校見学をしてみることに、写真を撮って見える所に貼っておく等、少しでも娘の不安が少なくなるよう相談にのってくださいました。本当に娘だけでなく母としての苦悩や不安もたくさん聞いて下さり感謝の気持ちでいっぱいです。早く療育を始めたおかげで娘も今では驚くほど成長して小学校に楽しく通っています。



ぶれ・しゅーれに行く前は、どう接していいかわからず親子で泣いたり、怒ったりしていた時間が多くありました。ぶれ・しゅーれに通うようになり、相談させて頂いた視覚支援の方法などを色々教えていただき、子供も落ち着き、私も心が穏やかな日々を過ごせるようになってきました。

我が子が未就学児の時期は、忙しくてしんどい時期でした。子どもの障害の可能性を指摘され、医療や療育機関とつながりながら事実を受け止めていくこと、夫や家族との連携、家事と育児を両立しながら療育機関へ通わせる時間を確保するのが大変でした。夫や姑さん療育機関の先生など周りの人協力なくしては、とても乗り切れなかったことを思いだします。我が子も就学し行動範囲が増えていく中で本人たちはどんどん成長し、親の負担も軽くなっていきました。療育を通して「子どもの立場に立って積み重ねた支援」の効果が時間をかけて発揮されたのだと思っています。幼児期は、子ども自身の生きにくさを受け止め信頼できる相談相手を探し、一貫性を持った子育ての方向性を探っていく大切な時期だと思います。子どもの生きにくさの『なぜ?』に対するノウハウをぶれ・しゅーれで教えてもらいました。「えーる」「えーるびらす」の利用を通して、これからも子どもたちと「どう一緒に行きしていくか」に向き合っていきたいと思っています。

